

## 序

身延山短期大学々園理事長・学監

竹 下 日 康

身延山短期大学学頭里見泰穂先生の古稀を祝い、その学徳を讃えて記念論文集が刊行されますことは、寔に慶びに堪えません。先生は学生時代から寡黙謹言致こととして勉学された方でした。友人達が高声激論する中でその傍らに在って黙々として読書されていられるような篤学の方でした。昭和十五年立正大学宗教科研究科を卒業されると、時の身延山専門学校教頭片山日幹先生の推挙で本学に赴任されました。片山教頭は前々から先生に嘔目されており宗門子弟の僧風教育の唯一場である祖山に先生を迎えられたのです。激動する戦前戦中戦後の教育特に戦中は学徒動員で学生と共に軍事工場で苦楽を共にし、戦後は物質の欠亡の中旧校舍に在て学生を指導されました。この苦難の中から巣立った方々が今宗門の中堅となつて、全国で法躍しております。斯のような間でも先生は数多くの學術論文を発表して学界に貢献されました。先生の努力で学園も面目を一新いたしました。御遠忌後本山当局は宗門人材教育の学園の経営に最善の努力を惜しみません。先生の御健康をお祈りし一層宗門子弟の教育にお尽し下さることお願いいたします。